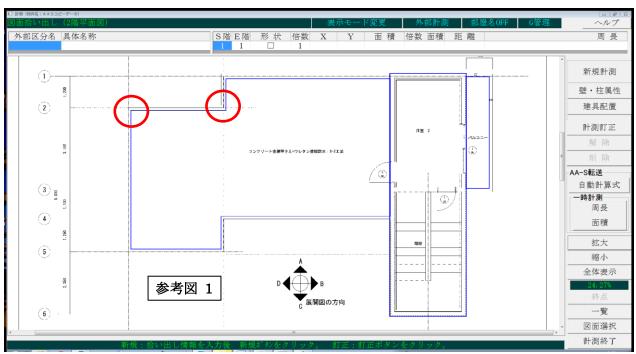
『電子サンスケ』 何かと便利な【図面計測】 臨機応変、融通の利く【一時計測】

【屋根の計測】

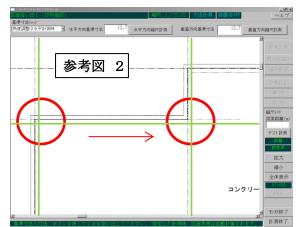
基本的に色々な拾い方がありますが、屋根・バルコニー・外廊下・外壁は平面図で拾う事ができます。階段や外壁面で立面図から取った方が速い、寸法・面積があれば【一時計測】を使用して仕上計算書(拾い書)から【図面計測】を呼出し計測した寸法・面積を計算書に取込みます。

参照図1は2階屋根(左側変形屋根)と3階屋根(右側正形)の屋根をそれぞれ別途計測します。



参考図2の様に緑の計測用十字キーが出ます。 その十字のクロスした中心をパラヘット(壁)内側 の折れる接点をクリックし、次の接点まで移動してクリック します。縮尺設定時に図面は水平に補正されている ので、十字キーの移動は通常ロックされて水平か垂直 にしか移動できないようになっています。

ですから、壁内法、壁外面を計測するときは一方向の 移動だけ考えれば良いので操作がスムーズに行えます。 水平・垂直以外の方向への移動はキーボードの Ctrl キーか



Shift キーを押すとロックが解除され360°好きな方向に移動ができます。ですから、曲面などは曲線状を細分化してなぞるように取るだけで済みます。

『電子サンスケ』の計測は実際に使用すると、意外なほど簡単かつスムーズにできます。

さて、屋根の1面を一周して閉じますと、次ページの参考図3のように各部位の計算式ができます。 床(閉じた面積)・巾木(周長)・壁(周長×パラヘット高)・天井(閉じた面積) 屋根ですので天井は不要ですから、行先頭□をクリックして☑で削除します。

		E宅新築工事]¥その													
計算変	数値 更	「床」材料	斗 未	指定			部位	2作成 「	チェック 完了	- 区分 管理	□ 面積 fェック	N 0	4	図面名 取込	
				外部区分名 具体名称 その他外部 2F屋根				S階 B階 形 状 床 面 積 天井面積 馬 乗							
	計測	図面表示		対象7ロ7 7 2	対象では、アルス (1975年) 対象では、アルス (1975年) 対象では、アルス (1975年) 対象では、アルス (1975年) 対象では、アルス (1975年) 対象では、アルス (1975年) 対象には、アルス (1975年) 対象には、アルス (1975年) 対象には、アルス (1975年) 対象には、アルス (1975年) は、アルス (1975年										
				W1 3.60	W2 W3 1.20 6.	21 5.21	W5 W6 6.40 1.25	W 7 3.41	W8 5.26				参考図	3	
行全知	材料No 工種No	区 分部 位		名 名	称1 称2	仕仕	様1 様2	単位	換算係数 数 量	+/-	変 数 計算結果				
1		床	材料:	未指定				m2	51.05	計	51.05	51.05	•		
2													•		
3		巾未	材料:	未指定				m	32.54	計	32.54	 [W1]+[W2]+[W3]+[W4]+[W5]+[W6]+[W7]+[W8]			
4													•		
5 □		壁	材料:	未指定				m2	16.27	計	16.27	32.54*0.50	•		
6													•		
7		天井	材料:	未指定				m2	51.05	計	51.05	51.05	•		

それぞれの行に材料をセットしますと参考図4になります。

計算式欄を計算すると【計算結果】になります。【計算結果】の列は【計】(親行)に対して下の行から【+】(加算)【-】(減算)できます。

【計】から【計】までの間の加減算は直上の【計】に対して働いています。 ですから2行目、3行目の計算式欄が有効(下図ではゼロ)であれば、上の【計】行の 計算結果【50.05】から2行、3行の数量を引き、その結果が1行目【計】の【採用数量】 に反映されます。参考図4ではハト小屋の数量をゼロとしているため影響していません。



小小屋床面積が【0.5 m】以下であろうとも複数あれば、それなりに減じるべき面積は膨らみます。ですから2行、3行目式の末尾のゼロ(0)を本来の箇所数ヵ所数に変更すれば、控除します。詳細説明は【防水・塗装 実践マニュアル】をご覧ください。

さて、この様に平面図計測数値と高さ情報を組み合わせて自動で計算式を作る方法と、外壁などは立面図から直接計測して数値(面積・長さ)を取った方が速いこともあります。 例えば参考図5では南側立面図の建具(AD1、AE1)を迂回しながら計測しています。

参考図6の【立面図 北】ではAD2を迂回して壁面積から外す事ができますが、AW1、AW2は計測する延長に無い為、この場では無視して後で計算書にてまとめて建具控除します。

下図は立面図を計測し【計算書】へ計測情報を転送した所です。

本来、平面図を転送するように作られているので応用して立面を取っているわけです。

つまり参考図7の床は壁面積です。

他部位の計算式は不要なので削除します。

【一時計測】は計算書から図面を呼び出して面積・長さを測りますが、今回は打継目地の長さも同時に欲しいので通常の計測をしています。 巾木は御影石なので面積に入れていませんが、 見切りにシールを見る必要があります。 参考図8で行を追加して外壁打継目地シーリング

★W1 は最上階、1-2F間、巾木天端、W3 は1-2F壁天端、巾木天端、建具下端の建具巾分巾木天端見切り控除をしています。

